

ふだんの
くらしを
しあわせに

ちょボラだより



この事業は赤い羽根共同募金の
配分金を活用し、実施しました。

新見市社会福祉協議会では、学童期からのボランティア活動として、自分にもできる「ちょっとしたボランティア“ちょボラ”」を推進しています。この取組は、思いやりの心やボランティア意識を育むことを目的として、毎年市内の小学生に取り組んでいただいております。

今年度は、10月～12月の間に2週間の取組期間を各校で設定していただき、市内17校508名の児童が取り組みました。

▷ 各学校の取組状況

学校名	取組学年	学校名	取組学年	学校名	取組学年
千屋小学校	1～6年生	刑部小学校	4～6年生	本郷小学校	4～6年生
西方小学校	4～6年生	上市小学校	4～6年生	神代小学校	3～6年生
塩城小学校	3～6年生	新見南小学校	4～6年生	新砥小学校	1～6年生
草間台小学校	4～6年生	井倉小学校	3～6年生	高尾小学校	4～6年生
神郷北小学校	3～6年生	野馳小学校	4年生	矢神小学校	3～6年生
萬歳小学校	2～6年生	思誠小学校	4年生		

みんなで取り組むちょボラを考えたよ！！



どんなちょボラに
取り組んでみる？

↑ 新見南小での様子

児童たちは主にこのような

ちょボラに取り組みました！

- ・あいさつ
- ・地域活動への参加
- ・ベルマーク集め
- ・高齢者に席を譲った
- ・ゴミの分別やリサイクル
- ・スーパーでカートを片付けた
- ・公園の清掃や地域のゴミ拾い など

取り組んだ児童の感想



- ・私にもあいさつやキャップ集めなど、できることがあることがわかりました。ちょボラをすると、笑顔の人が増える気がしました。
- ・休日に5・6年生で公園のそうじをしました。地域の方が時々掃除をしてくれていることを知っていたので、私もこれから気にかけてきれいに使ったり、気づいた時にはきれいにしたいと思いました。
- ・ちょっとしたボランティアをするだけで、みんなに“ありがとう”と言ってもらえてうれしかったです。これからは、意識しなくてもボランティアができるようになりたいです。
- ・ちょボラをして、人のために何かすることは気持ちがいいということがわかりました。何か人の役に立てることを探してみるのもとてもいい活動なので、これからも身の回りにあるちょボラを探して積極的に取り組みたいです。
- ・ちょボラは人や地域のためになるけど、「ありがとう」や「うれしい」と言ってもらえて優しい気持ちになり、自分のためにもなると感じました。



ご家族からのことば

- ・お友達ときちんと日時を決めてゴミ拾いを計画し、実行できました。自分たちには何が出来るか考えて行動する力がつき、子どもの成長を感じられてうれしくなりました。
- ・「今日は何をしようかなあ～」と自らバス停のそうじをしてみたり、ゴミの分別をしてくれたり、とてもうれしい気持ちになりました。
- ・はじめは何をしたら良いのかわからないようだったので、「自分が気づいたことをしたらいいよ」と言うと、遊んでいるときでも道に落ちているゴミを拾っては嬉しそうに見せてくれました。
- ・自分で考えたちょボラは取組めたように思います。“ちょっとしたボランティア”とはどんなことがあるのか、私自身も子どもと一緒に考えて、一緒に取り組んでいけたらいいなと思います。優しさと思いやりをもって続けて行ってほしいです。
- ・公園のゴミを拾ったり、地区のゴミを拾ったりすることで、近所の方ともコミュニケーションが取れていました。「ありがとう」の言葉を言ってもらい、子ども自身がやってよかったと嬉しそうにしていたので、とても良い経験になったと思います。
- ・週末には親子でゴミ拾いやお店で募金をするなど、家庭でもちょボラを意識した生活が送れて良かったと思いました。他にもどんなことがちょボラにあたるのかを考えて、時には実践できるといいなと思います。

— あとがき —

コロナ禍で外出の機会や地域活動が減り、地域の方とふれあう機会が持ちにくい状況の中でちょボラに取り組んでいただいたため、やりにくさを感じられることもあったかもしれません。しかし、事前にしっかりと取組について考える場を持ち、“わたしだけのちょボラ”を決めて取り組もうとする前向きな姿も多く見られました。学校によっては、他学年と一緒に“取り組んでみたいこと”について話し合ったり、社協職員によるちょボラのオンライン説明会を実施した学校もあり、有意義な取組につながりました。友達と予定を合わせてゴミ拾いをした、家族でちょボラについて話をしながら一緒に取り組んだといった感想もあり、積極的にちょボラができたことが伝わってきました。

これからも、一人一人の取組がつながり、思いやりの輪が広がることを願って、新見市社協では、今後もちょボラを推進していきたいと思っています。

ご協力ありがとうございました

